

安全登山教室委員会「クライミングスクール」活動報告

安全登山教室委員会のクライミングスクールは現在、初心者を対象とした講座「クライミングスクールーⅠ」と、過去のクライミングスクール修了者もしくは、加盟団体のリーダーまたはリーダー候補者を対象とした講座「クライミングスクールーⅡ」を実施しております。本年度のクライミングスクールは昨年同様にコロナ禍のため、6月から実施予定で計画を進めましたが、受講者数はクライミングⅠ・Ⅱを合わせて20名程でした。

7月の緊急事態宣言を受けて、机上講習はZoomの併催でビデオなどを活用して行いましたが、進行中であった実技講習は間際で延期とし10月からカラキュラムを組み直しました。時期的に寒くなる中で実施期間も短くなり中止も検討されましたが、クライミングⅠでは実技講習5回・オプションを1回に変更、クライミングⅡにおいては実技講習3回・オプション無しで実施いたしました。しかし計画変更で受講生の方々には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。

クライミングⅠ実技3回目の小川山・廻り目平は車が駐車できない程混んでいて、講習場所の確保に苦労いたしました。オリンピックのクライミング競技の影響もありクライミングをする方が増えているように見受けられます。安全登山教室委員会のクライミンスクールでは一般登山の中で使われるクライミング技術、また注意点などを主たる講習内容とし、今後も受講者に安全に登山を楽しんでいただけるよう努めさせていただきます。

安全登山教室委員会 小暮洋一

加盟山岳会紹介・会員番号327 ～登高会 嵩（くら）～

登高会 嵩（くら）は、1983年に創立して今年で38年になります。「嵩」とは岩・岩壁を言い表す方言、古語で「嵩」には3つの意味があります。1.山稜の下にある岩。いわゆる岩壁を言い表す言葉で、岩という文字の古語です。2.神様がお座りになる台座を指します。神は山であり、登高会 嵩はその台座でもあります。3.肩という意味もあります。目標は頭であり、常に目標に向かって進むと言う意味もあります。「登ろう高く岩へ」を合言葉に私たち登高会 嵩のメンバーは四季を通じてアルパインクライミング、フリークライミング、沢登り、雪山登攀、アイスクライミング、山スキーなどをオールラウンドに楽しんでいます。現在は登録会員43名、実働（よく山に行っている者）10数名という規模で活動し続けています。昔は月に1度の会山行と春、夏、冬の合宿山行があり、毎回10数名の参加者で賑わっていましたが、時代の変遷でここ10数年はそのような大勢で山行を行うこともなく数人で集まり各ジャンル、エリアに出かけています。会としては遭難対策を重視して山岳保険への加入の義務化、年に1度の救助訓練（岩、雪）および雪上訓練を実施しています。また以前より東京都山岳連盟の各委員会へ多数の人材を送り出し、役員として活動したり各登山教室の講師を務めたりして活動をしています。登山教室を卒業された多くの方が当会に入会しています。集会は月に1回行い山行報告、計画を行いその後の懇親会で山への思いを語っています。コロナ禍の現在はZoomで行っています。ホームページをご覧になり興味があれば私たちと一緒に山へ登りましょう。



登高会 嵩 30周年記念パーティー



会山行/上越足拍子岳

登高会 嵩 代表 高坂博之

2021年を振り返って ～とがくれん通信の記事から 2021 年を振り返る～

コロナ禍 2 年目で、活動も制限された 2021 年。そうした状況下でも新たな手法が試され、自然保護の重要性やスポーツの素晴らしさを実感できる記事が掲載されました。編集委員がピックアップした 3 つの記事から今年度を振り返ります。

1. 初のオンライン「会員交流会」開催

2021 年 1 号では、初めての zoom によるオンライン「会員交流会（2 月 27 日）」の開催が報告されました。続いて第 3 号では今年度の第 1 回「会員交流会（7 月 27 日）」がオンラインで開催され、オンライン懇親会も行われたことが掲載されました。今後、オンラインとリアルという 2 つの手法を持つことの有益性が認識されました。

2. カタパトを実施し善後策を依頼

第 2 号では、昨年中止となったカタパトが 4 月 10 日に実施された記事が掲載されました。専門委員 15 名が分担してカタクリ保護の看板を各所に設置し、定点 6 カ所で花株調査を実施。シカの食圧の高まりから、情報を環境省等の関係機関に連絡し善後策を依頼したことが報告されました。コロナ禍でも知恵を出して、必要な自然保護活動を継続する姿勢の大切さが伝わりました。

3. 野中生萌選手が「銀メダル」獲得

ユース時代から都岳連の強化選手、国体の東京都代表として活躍した野中生萌選手が東京オリンピックで「銀メダル」を獲得。これまでの貴重なお話を、野中選手のお母様と篠崎コーチから伺い掲載しました。今年度の一番面白い話題として、注目を集めた記事となりました。

「とがくれん通信」は会員の皆様へ定期的に情報を届け、よりよい活動につなげるための情報誌です。活動報告や寄稿なども受け付けておりますので、下記までご連絡ください。

「とがくれん通信」出版委員会一同



公益社団法人 東京都山岳連盟

〒101-0041 東京都千代田区神田司町2-10 パークサイドセブン2 F

Tel/03-3526-2550（月～金13:00～17:00） Fax/03-3526-2551(常時) https://www.togakuren.com E-mail:lej04543@nifty.com

前回の通信三号が出たころから新型コロナウイルス感染者が減りだし、この編集作業をしている十二月は新規感染者がかなり少なくなりました。都岳連もずっと行事や活動を実施できずにはおりましたが、徐々に事業が再開されてきて、通信四号とその記事を掲載できたことは嬉しい限りです。このまま収束してくれば良いのですが、ニュースでオミクロン株が報告され感染の第六波が心配です。とがくれん通信は、コロナ禍で昨年都岳連活動が停滞したなか、加盟団体や個人会員の皆様をつなぐ架け橋でした。今年も様々な記事を掲載しましたが、今回は新しい試みとして、一号から三号まで掲載した記事で一年を振り返ってみました。二〇二一年は二〇二〇年に続き世の中の活動が低迷した一年でしたが、夏には東京オリンピック・パラリンピック二〇二〇が開催されて、連日の日本選手の大活躍に力を貰った方も多かったと思います。スポーツは不安で沈みがちになる気持ちにパワーを与えてくれます。来年はウィズコロナで良いから世の中に活気が戻り、都岳連も通常の活動を再開して、Webだけでなく実際のフィールドで活動できることを期待しています。

出版委員会 星野恒行

2021 年 4 号

公益社団法人 東京都山岳連盟

TMF

とがくれん通信

写真：山岳写真 ASA 庄内春滋

我々はコロナを克服できたか

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。特にここ一、二年は、新型コロナ禍に翻弄された毎日でした。ご多分にもれず、都岳連も通常行っていました各種講習会や行事等の業務も滞り、会員の皆様にも大変なご不便をおかけいたしました。そしてご心配をおかけいたしました。役員一同心からお詫び申し上げます。昨年 10 月には基本的なコロナ対策を前提に積極的に事業を押し進め、都岳連の普通の姿に戻っての活動を模索してまいりました。そして、11 月には感染者数が急激に減少して、漸く業務を通常のかたちに戻せそうな気配になりましたことは、誠に喜ばしいことでした。ただ専門家でも、これらの正確な理由は不明だそうです。いかに感染者が減少しても、世の中からウィルスが一掃されたわけではないそうです。やはり新しい年を健康に過ごすために、今まで通り、基本的なウィルス対策は不可欠と言わざるを得ないようです。欧州や韓国などでは過去最高の感染者が出ていて、落ち着いたはずが再燃して、増加する事態になっています。都岳連としましては本年を、この間の災いを転じて福とすべく、会員の皆様とともに邁進していきたいと願っております。旧年と変わらずのご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

2022 年 1 月 公益社団法人 東京都山岳連盟 副会長 理事 中嶋正治



「会員交流会」報告 第2回会員交流会開催

12月2日今年度2回目となる会員交流会をZoomにより開催しました。

第1部は気象委員会から島田義信さんを講師としてお迎えして「天気を調べて安全登山」講習会を行いました。

基本的な天気図の見方から、山の核心部通過時の状況を予想する方法など、安全登山には欠かせない有意義な内容でした。みなさまからの質問にもわかりやすく説明いただきました。

第2部は4つのグループに分かれて会員同士のディスカッション&懇親会を行いました。都岳連役員も加わり、お酒など飲み物を各自用意して、普段お話しする機会がない方々と和やかな雰囲気の中、気象、山ご飯、お花、山スキー、好きな山などのディスカッションを行いました。今後も有意義なテーマの講習会を含んだ会員交流会を定期的に開催していきたいと考えております。皆様是非ご参加ください。

事務局 末廣八千代

【参加者の声】

- ・自分にとっては少し難しい部分もありましたが、山での気象遭難を防止するため天気予報は重要で、細かな気象データを早期に情報収集することの大切さが分かりました。
- ・内容は専門的でした。天気のお話し面白かったです。地球の風サイトはずっと眺めていても飽きません。
- ・私の参加したグループは、みなさん気さくな方ばかりで、大変和やかに話ができて、楽しい時間を過ごすことができました。私は全員と初顔合わせだったため、少しばかり話し足りない感がありましたので、また機会があれば、次回はリアルな場で交流を持ちたいと思いました。

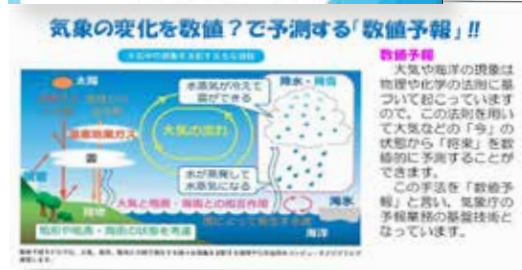
2022年「都岳連新春の集い」についてのお知らせ

昨年につづきコロナ禍のため、2022年都岳連新春の集いは中止となりました。開催できずに残念ですがご了承ください。（事務局より）



安全登山を目指す基礎的な技術の習得を目指しています。

詳しくみる



おくたま登山学校 浅間嶺と峠の歴史(+読図)

今回歩いた浅間嶺は、奥多摩の山々を見ながら緩やかな尾根道を歩く人気の山です。北を見ると大岳山や御前山の全容を眺めることができ、山頂近くで南を見ると隣の笹尾根越しに綺麗な富士山が見える素敵な場所です。そんな浅間嶺を歩いていると所々で小さな祠や石仏などを見かけます。ほとんどの方々は気にせず通り過ぎますが、今回の講習では、あえて1つ1つ確認しながら歩くことで、今までには無い登山の楽しみ方を体験していただきました。例えば、馬頭観音は馬などを供養するための石仏で、当時その場所に馬などがいて生活の一部だった証拠になります。石仏に刻まれた年号を読み解けば、どんな時代に建立されたのかもわかります。人里（へんぼり）峠の馬頭観音には享保の文字が読み取れます。享保といえば今から約300年前で、田沼意次の利益・都合優先主義の政策が実施され、諸大名や庶民が大変苦勞した時代に建立されたことがわかります。当時は江戸時代ですので、着物を着て足袋を履いた人たちが生活物資を背負って歩いたり、馬に荷物を背負わせて歩いていたこと、などが想像できていつもとは違う風景が見えてきます。通常の講習では登山のスキルやテクニックを学びますが、歴史の要素を加えることで、いつもとは違う登山の楽しみ方を経験してもらいました。奥多摩の山には旧街道や古道がたくさん残っているので、今後も歴史の要素を取り入れた講習会を続けたいと思います。

おくたま登山学校スタッフ 佐藤勝秀



自然保護委員会のからの報告 JMSCA自然保護指導員 新規認定講習会

＝ 初めてのリモート机上講習会 2021.11.15 報告 ＝

2021年11月現在、日本でのコロナ感染者は172万人、死亡者は1万8千人を超え、現在も油断できる状況ではありません。東京都山岳連盟では毎年JMSCA自然保護指導員規定に基づき、自然保護指導員の認定講習を実施しております。昨年度はコロナ感染予防のため自然保護指導員の新規募集は中止しましたが、安全面を考えると仕方ない対応でした。しかし今年は2年連続での募集中止は避けたいという思いで、箭内忠義を主担当とし、リモート講習会という形で取り組むことにしました。2年に渡るコロナ禍でリモートワークはもはや当たり前になりました。ならばリモートでの机上講習ができないはずはないと、委員会メンバーの知恵を仰ぎながら準備開始。Zoomで練習とリハーサルを繰り返し、事務局をベースに講話者と受講生が自宅から参加する、ハイブリットといういきなりハードルが高い形式で無事実施することができました。

最初のリハーサルではどうなることやらと不安でしたが、本番は練習の成果？で概ね予定通りスムーズにZoomによる机上講習を終えることができました。山を舞台にした登山を含めた諸活動は世代を超え、様々な利用形態の広がりの中で、多様化し拡大しています。多くの人が山を気楽に親しめるようになった反面、私たち登山者は誰が山の自然環境を守り、誰が登山道を維持管理するのか、誰がその費用を負担するのか、などを深く考えずにいるのではないのでしょうか。今回の受講で山岳自然の適正な利用や、環境保全に少しでも役立つように、啓発・指導する自然保護指導員となることを期待しております。机上講習会然り、アフターコロナではオンライン〇〇が増え、自然保護も時代の流れに合わせて取り組みをせざるを得ない、と考えさせられた今回の講習会でした。

自然保護委員会 箭内忠義 阿部幸子

参加者：オンライン受講者/5名、講師（専門委員2名）
事務局より配信：司会、統括、バックアップ（専門委員3名）

＜講習会中の事務局風景＞



テーマ1 自然保護指導員とその役割

- ・自然保護指導員とは
- ・自然公園について
- ・自然保護指導員の役割



＜写真：巻機山の植生破壊一種まき作業の様子＞

—やっぱり「山岳会の仲間」っていいですね

久保田賢次の 四方山話（その11 最終回）

2019年2号から長い間ありがとうございました！読んでいて「なるほど！」と沢山気づかれました。

出版委員会一同より



「つなぐ」「つながる」って、こういうことだったのですね

最近「つなぐ」「つながる」という言葉が好きになりました。勤務先で「山の絵つなぐサイト」の運営を始めてからです。長年、登山に親しまれて来た皆さんが、高齢になられるとともに、山から離れることを少し淋しく感じていましたが、せめて思い出の山が描かれた絵画等を部屋に飾ってもらい、時々「山」を思い出して欲しいと思ったのが動機です。また、若い人たちも、山で絵を描く時のように、じっくりと対象を見つめて山と向き合って欲しいとも感じています。おかげさまで、サイトににご出展くださった画家の方々と、作品を購入なさった人との交流も生まれるといった嬉しい話もお聞きます。「つながる」ということは、山岳会の活動を通じて、関係性を大切に出来た都岳連の皆様は、当たり前のように体験して来たことではないでしょうか。私の所属する山岳会でも、感染拡大下、長く例会もお休みしていましたが、最近、久しぶりに会場を借りての会合を開きました。登山の喜びや感動を、辛さも含めて共有し続けて来た先輩や仲間たちではありますが、「やはり、実際に会って話をするとは、いいものだなあ」としみじみ感じました。この間、オンラインでの例会や、メールベースでの議論など、直接会わなくても、ある程度のコミュニケーションは可能なことや、逆に地域で暮らす仲間も参加できるオンラインの新鮮さなどを実感された方も多いと思います。しかし、場や空気をともにしての語らいや、つながりに変えられるものはないような気がします。

最近、登山愛好者の約4割の人が、誰からも教わることなく、誰かと一緒に歩いて感動を分かち合うこともなく、独りで登山に出かけていると聞きます（昨年、私が大学の研究の一環として行った全国アンケートでも同じような結果でした）。活動の低迷、高齢化、会員数の減少…。個々の山岳会や登山組織が抱える悩みは一樣だと思います。しかし、やや古い言葉かも知れませんが、「同じ釜の飯を食う」ことの喜びや、つながりを実感して来た私たちだからこそ、その良さを後世に伝えてゆく夢を、もう少し持ち続けていたいと思うのです。同じ課題を抱える組織そのものも、今こそ横のつながりを、より大切にしていかなければならない時なのだとも感じます。二年間に渡り連載の機会をいただきまして本当にありがとうございました。みなさまに改めて感謝申し上げます。

（くぼたけんじ）1958年茨城県筑波山麓生まれ。徒登山山岳会会員。東京都山岳連盟救助隊所属。筑波大学山岳科学学位プログラム終了。日本山岳救助機構研究主幹、AUTHENTIC JAPAN（ココヘリ）アドバイザー、日本山岳文化学会常務理事、日本山岳会理事、全国山の地協議会理事など。



『山の絵つなぐサイト』
<https://yamanoe.jp/>

優待施設紹介

＜下仁田 荒船の湯＞ 妙義山や荒船山の帰りに立ち寄れる日帰り温泉施設

日本三大奇勝の一つである険しい山容の「妙義山」、その妙義山と対称をなす平らな山頂の「荒船山」など、群馬県の山を楽しんだあとに立ち寄ることができる「下仁田 荒船の湯」は、山旅の疲れを癒すことができる日帰り温泉施設です。山並みを見渡す「露天風呂」はもちろん、「打たせ湯」や「寝湯」などのバリエーション豊かな入浴が楽しめます。泉質は「含二酸化炭素－ナトリウム－塩化物強塩冷鉱泉（中性高張性冷鉱泉）」。

神経痛・筋肉痛・関節痛・慢性消化器病・痔病・冷え性・疲労回復・高血圧症・動脈硬化・慢性皮膚病などに効果があるとされています。御食事処では旬の「下仁田ネギ」を使用した「肉汁ねぎうどん」など、豊富なメニューをご用意。オリジナル生ビールやその他のドリンク類も取り揃えておりますので、入浴後にはゆっくり御食事もお楽しみいただけます。

また、最近注目を浴びるコワーキングスペースもあり、ワーケーション施設としても利用できます。ぜひ一度、お気軽にお立ち寄りください。



全国優待施設案内

- ◎宿泊施設
- ◎奥多摩／三条の湯、駒鳥山荘
- ◎奥秩父／雲取山荘
- ◎富士山／三ツ峠山荘、トモ工館
- ◎谷川岳／関東／千秋庵、谷川岳肩ノ小屋、永楽荘、谷川温泉（株）旅館 たにがわ、燐恋の宿 あいさい、土合山の家、下仁田 荒船の湯、武州自慢館 藍染カフェ（深谷）
- ◎日光／日光澤温泉、スパ・ビレッジカマヤ、日光湯元温泉（株）奥日光小西ホテル、
- ◎浅間／天狗温泉 浅間山荘
- ◎尾瀬／山ノ鼻小屋、尾瀬小屋、燧小屋、
- ◎新潟／笹原館、燕温泉（有）ホテル花文、赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」
- ◎丹沢／蛭ヶ岳山荘、みやま山荘
- ◎八ヶ岳／蓼科山頂ヒュッテ、赤岳展望荘、ヒュッテ夏沢、美濃戸山荘、八ヶ岳山荘、硫黄岳山荘、根石岳山荘、夏沢鉱泉、八ヶ岳オーレン小屋
- ◎北アルプス／明神館、太郎平小屋、薬師沢小屋、高天原山荘、スゴ乗越、雷鳥荘、みくりが池温泉、雷鳥沢ヒュッテ、ロジック立山連峰、大和リゾート（株）Royal Hotel 長野、中房温泉、新穂高温泉 ひがくの湯と登山者食堂
- ◎中央アルプス／たかの湯、ゲストハウス みんなのいえ、
- ◎南アルプス／北岳肩ノ小屋、ペンションさんどりよん、山彦荘、赤石温泉

- ◎東北・北海道／八幡平高原ホテル、ハ일랜드ホテル山荘、アルプ天元谷、八甲田山荘、茅葺屋根の民宿「離騒館」、飯豊山荘、森吉山荘、竜山荘、旅館大黒屋、酸ヶ湯温泉、ペンション あるべじお、八幡平リゾート（株）八幡平マウンテンホテル、（株）宿かり屋ドドコム 焼走り国際交流村、（有）元湯甲子温泉、十勝岳温泉株式会社 凌雲閣
- ◎関西・中国／ホテル大山 しらかね、ペンションいぶき、皆生温泉（株）三井別館
- ◎四国／剣山頂上ヒュッテ
- ◎九州／大和リゾート（株）ActiveResorts 霧島、アクティブリッツ福岡八幡

- ◎登山用具販売店
- ◎神田／さかいやすポーツ
- ◎クライミングジム
- ◎葛西／ロックランズ
- ◎西東京市／クライミングジム GIRI.GIRI

